



2008NTTトライアスロンジャパンカップ第7戦大阪大会速報

女子は19歳、大学生の今村が優勝

男子優勝は福井英郎、2位は杉本宏樹。女子2位には川口綾巳が入る

7月13日(日)、大阪市舞洲スポーツアイランド・夢洲周辺特設コースで、2008NTTトライアスロンジャパンカップ第7戦・2008大阪国際トライアスロン舞洲大会が開催された。

競技距離はオリンピック・ディスタンスの51.5km(スイム1.5km/バイク40km/ラン10km)。

午前11時15分スタートの女子エリートは、スイムで土橋茜子(チームケズ練習生)が後続を43秒引き離してトップフィニッシュ。2番手は今村優(九州共立大学)。その約2分後に、残りの選手が集団でスイムを終えた。

バイクでは、土橋が独走を続けたが、最終周に入って追いつかれ、代わって川口綾巳(福岡県連合)がトップに立った。その後は、高橋侑子(東京ヴェルディ)、今村、久保田早紀(チームブレイブ)の第2集団。その差は13秒と少なかった。

ランでは、川口が終始リードを保ったが、



スイムはフローティングスタート/スイムを上げる田山(右から)、足田、山本



男子、福井、山本、田山の先頭集団/女子、今村、高橋、久保田の第2集団

今村 優
九州共立大学



今回はチャンスだと思っていた。ジャパンカップ初優勝は嬉しい。バイクで一人で逃げようと思っていたが、2周目でチェーンが外れて、後続を待った。1週前のユニバーシアードでパンクで途中リタイアしたので、このレースで雪辱した気持ち。川口選手とはいつも練習している。

川口 綾巳
福岡県連合



はじめてのジャパンカップ表彰台に立てたのは嬉しかった。バイクで逃げきれなかったが、ランで逃げ切れなかったのは残念だ。今村選手とは同じチームなので、このレースはラン勝負になることはレース前に話し合っていた。しかし、ランの後半で追いつかれてしまったのが悔しい。

JTU Official Sponsors & Official Partners



終盤に今村に追いつかれ、トップを譲った。今村はそのまま2時間20分19秒のタイムで、ジャパンカップ初優勝となった。2位は、川口、3位には、バイクで最後尾となりながらもランで追いついた大松沙央里(トヨタ車体)が入った。

午前11時55分スタートのエリート男子は、スイムから、スペシャリスト疋田浩気(静岡県協会)を中心に、北京オリンピック代表の山本良介(トヨタ車体)、田山寛豪(流通経済大学職員/チームブレイブ)、福井英郎(トヨタ車体)、平野司(NTT東日本・NTT西日本)、杉本宏樹(チームブレイブ)が一歩も譲らぬ展開に。この6名は、ほぼ同時にスイムを終えた。

バイクでは、山本が一人逃げを続けるなか、田山は腰痛のためリタイア。山本を追うのは、福井、疋田、杉本の3名だったが、バイク終了時点では山本とは1分15秒の差がついてしまった。

ランに入ると、山本が大事を取ってレースから離れ、代わってトップに立ったのは、山本のコーチでもある福井。杉本もよく福井を追ったが、結局福井が逃げ切って2時間42秒のタイムで優勝した。2位は杉本、3位はバイクで3分近く離されたが、ランで前を追った下村幸平(JSS深井)が入った。

このレースの様子は「web JTU Magazine」フォトギャラリーでご覧になれます。



(上)初優勝の喜びを表す今村のフィニッシュ

(下)気温が上がるなか、堅実に走って優勝した福井

福井 英郎

トヨタ車体



練習のほうがレースよりもきついのだが、レースには独特の駆け引きや綾がある。コーチとしては、バイクで山本が積極的に逃げるレースをつくりたかった。今日の課題は、スイムとバイクでのレースをどうするかだったので、結果は出せたと思う。ランでは、自分が勝つつもりで走った。

杉本 宏樹

チームブレイブ



いろいろな意味で試されるレースだった。バイクの登りで田山、福井選手にちぎられたが、疋田選手が追いついてきて福井選手を追うことができた。バイクで前を追う姿勢は出せた。ランも、後半は良かったのだが、前半から力を出せるように練習を重ねていきたい。

JTU Official Sponsors & Official Partners

